



道 信

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.24 秋号

みちづくし in 熊本2012
清正が創った「熊本の道」
目的にあわせ多彩な道づくり

巻頭随想

「胸にジンとくる道」
喜多悦子

7月の九州北部豪雨被害 現地報告

「みどりの里・耳納風景街道」を訪ねて

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一步踏み出そう。



P. とるば
湯布院駅前
(大分県由布市湯布院町)

CONTENTS

- 01 巻頭随想 「胸にジンとくる道」 喜多悦子
- 02 7月の九州北部豪雨被害 現地報告
- 03 「これまでに経験したことがないような大雨」 国交省・九州地方整備局道路部
- 04 みちづくし in 熊本2012 清正が創った「熊本の道」 目的にあわせ多彩な道づくり
- 06 道守九州会議交流会 今こそ考えよう 現代の道守とは…
- 09 私たちの道守活動
- 12 海外道事情 便利で面白いストリートネーム 富山英範
- 13 わたしの好きな道 今に生きる喜びと希望を抱いて 宮田 隆
- 14 「みどりの里・耳納風景街道」を訪ねて
- 16 道守たちのトピックス
- 16 道守人物伝
- 17 討論 「連携・協働で築く社会基盤とその運営」

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭随想

喜多悦子

ETSUKO KITA

「胸にジンとくる道」

人生という自分固有の道は、日々、誰にも平等に伸びているが、どこに向かっているのかあまり定かでない。それがある程度判った時、人は老いを知るような気もする。ふたつの思い出の道を記したい。

まずは昨年の東北大震災。

本学は大震災後、地元福岡で赤十字義捐金募金活動を繰り返した後、昨年8月には夏季休暇を利用して、宮城県で短期間な

がら総勢80名の学生ボランティア研修を行った。

熊谷順子国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所長(当時)から国交省東北地方整備局の活動をご解説頂く。災害対策室の巨大スクリーンの画像を示しつつ、整備局を挙げての活動を解説下さった。生々しい津波、無残に壊れる一方の街、果然と立ちすくむ被災者、跡形どころか存在したかも知れない道路。その後の「くしの歯」作戦の見事な効果に私たちは圧倒され、息をのんだ。

かつてアフガン難民支援に従事したパキスタンで、辺境のキャンプへ向かう途中、砂漠地帯で道に迷った…というより、そもそもまともな道がない一帯で、突然、ヒョウ混じりの豪雨に遭遇し、あるか無きかの道が消えたことがあった。夕やみ迫る中で心臓の鼓動だけが聞こえていたほど心細い思いもした。人道救援での道は救済者や物資を導く物理的インフラであると

ともに、その先で助けを待っている人々にとっては、外とつながるという安心感をもつ未来への希望につながる重要な精神的インフラだと痛感したことを思い出した。

もう一つは大自然の中の歴史的な道だ。

20数年前、中国の首都北京の病院に勤務した。外国人の接遇を担当する専門家局というお役所が企画する時折の地方旅行や行事見学に参加させてもらっていたが、その中のひとつが「シルクロード旅遊」だ。部分的にタクラマカン砂漠を走ったこの旅行は特筆ものだ。

前後左右遮るものがないまま地平線まで地面が続く。その中、頼りなげなわずかに舗装跡が残る一条の道。倒れないように根元に石が積まれた枯れ木のような電柱が続くところもあった。感動したのは、炎天下に、毎年のように砂嵐で消えるというはかなげな道を「もっこ」と鶴嘴とスコップだけで修理している

人々がいたことだ。燃えるような太陽の日差しを遮るものは細い電柱の影だけ、過酷な自然と対峙する人間の力というか、この国のすごさ、人々のタフさに圧倒された。

この道の続きを数年後に走るようになった。

カラコルムハイウェイは、中国喀什から標高4,693mのクンジャラフ峠をこえてパキスタンに至る。1980年代末、日本人初の紛争地派遣で、パキスタンのペシャワールに住んだ折、所用を兼ねてこの道を走破する機会があった。

ハイウェイ化してからも落石や地滑りは止まっていない。かつて長寿の里として脚光を浴びたフンザ近くで発生した数年前の大規模地滑りでハイウェイが寸断されたうえ、フンザ川がせき止められてできたダム湖に水没したままのところもあるそうだ。私が走破し



九州国際看護大学学長。兵庫県宝塚市出身。小児科と血液学の臨床と教育に従事後、国際保健分野に転身。現厚労省国際医療研究センター、UNICEF、WHO勤務の後、看護教育に従事。現在は日本の地方と高齢化に関心大。趣味ネコ。

プロフィール

何はともあれ、「道」という言葉には胸がジンとなる。

7月の九州北部豪雨被害

被害にあわれた方々へ 心からお見舞い申し上げます

現地報告

堀 幸子さん（竹田市）

私たちのまち大分県竹田市は、2012年7月12日に発生した今までに経験したことがない記録的集中豪雨により大きな被害を受けました。もともと、水害の多い地域ですが、今回の災害は被害が大きく、立ち直れるのかと不安に駆られる日々でした。そして、今回ほど辺境に住んでいることに悲哀を感じたことはありません。道は土砂崩れで閉ざされ、汽車は線路はズタズタで止まり、まさに陸の孤島でした。竹田市は大分県ではありますが、県境に位置しているために、国道57号線を利用し、熊本地域の経済圏、生活圏に属している人々がかなりいます。災害で国道57号線が一部通行止めになり、物流・人的交流が遮断され、地域経済にも計り知れない影響を及ぼすことになりました。7月に災害から1ヶ月後の8月20日、九州地方整備局の日夜を分たぬ突貫工事により仮橋の設置で国道57号線滝室坂が開通しました。一日も早くしなければというご努力に感謝いたします。一方、かねてから私たちが国土交通省に嘆願している「中九州横断道路」が出来ていれば、代

替道路としての役割を果たしてくれ、今回の様な不便は免れただろうと残念でなりません。そんな中、道守会員・蒲江の道づくりを考える女性の会から700枚の雑巾や、「頑張れ」と書いた飴玉が贈られ、大変励みになり、道守の繋がりを本当にうれしく感じました。その他全国各地からのボランティアの方々のご支援や善意が沢山届き、打ちひしがれた私たちを元気づけて頂き、今、再起への道を歩んでいます。本当にありがとうございます。



道守さんがつなぐ地域と人の輪

被災地の一日も早い復興を願い、活躍された道守さんたちを紹介します。「道守くまもと会議」に所属されている「(NPO法人)自然を愛する会」「九州横断の道阿蘇くまもと路」に所属されている「(公財)阿蘇グリーンストック」では、浸水した家屋の畳・泥出しなど人の手でしかできないボランティア活動に延べ100人近い方々が参加されました。また「道守大分会議」に所属されている「蒲江道づくりを考える女性の会」の方々は、被災地竹田市に約700枚の雑巾を送られています。被災地復興のため、様々な取り組みや協力された道守さんたちは、他にもいらっしゃると思います。代表してご紹介させていただきます。

柳川市役所

平成24年7月九州北部豪雨は、柳川市にも甚大な被害をもたらしました。柳川市では、7月11日から14日の4日間で415mmの降水量を記録。また、市内を流れる矢部川水系の上流では、これ以上に激しい雨が降ったこともあり、矢部川とその支流、沖端川の水位が上がり、7月14日、矢部川堤防と沖端川堤防が決壊する事態となりました。このため、市内では広範囲に渡って洪水が発生し、市内のおよそ3分の1が冠水。幹線道路も通行止めとなり、道路が使えないことで、被災者の救助や避難者への食事の配送にも支障をきたす事態が生じてしまいました。また、復旧に向けては、道守柳川ネットワークからも多くの会員がボランティアとして被災地に入りましたが、そんな中、印象的な出来事がありました。

「八女市にもボランティアにきたいが、道路が通れないので行くことができない」と話す方がいらつしたのです。復旧作業をしようにも、まずは道路がなければ…。道路の大切さを改めて実感した出来事でした。



「これまでに経験したことがないような大雨」

国交省・九州地方整備局道路部

昼夜の作業で、早期復旧へ

平成24年7月、九州北部は記録的な大雨に見舞われました。この雨の表現として気象庁より「これまでに経験したことがないような大雨」と発表され、各地で大きな傷跡を残しました。本号では九州北部豪雨災害による国管理の河川、道路の被災状況とあわせ九州地方整備局での対応について報告します。

九州北部に記録的な豪雨 平成24年7月

の阿蘇市波野小地野（同市一の宮町）坂梨間の約4.6kmにおいて11箇所及以上斜面崩壊等が発生し、全面通行止めとなりました。このうち10箇所においては熊本、大分両県の整備局事務所及び地元業者による24時間体制での復旧作業により7月16日までに応急復旧を完了することができました。

完了予定を、8月20日まで縮めることができ、道路利用者や地元観光業者の方々より「大幅な迂回で困っていたが予定より早く開放となり良かった」、「この日を待っていた。多くの利用者に訪れてもらいたい」など早期開放に対する喜びや安堵の声が届きました。

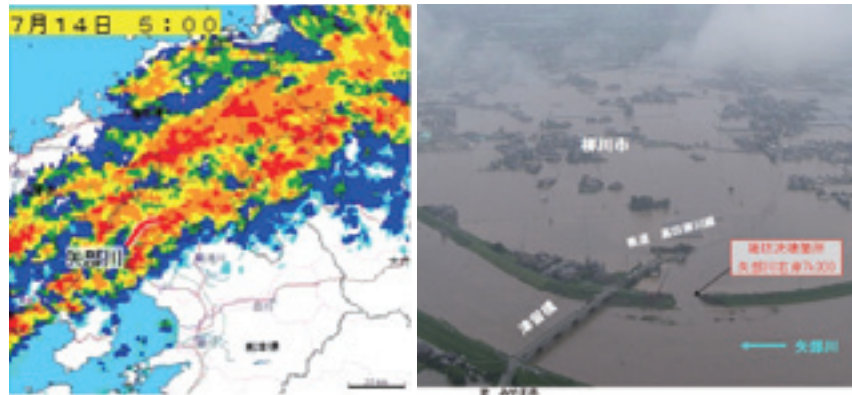
しかし、被災規模

が一番大きい1箇所においては斜面からの流水が収まらず、崩落した斜面部には浮き石が多数確認され、落石の可能性があることが判明。仮橋で迂回することにより交通を確保する計画としました。関係者が一丸となつて、1日も早い復旧を目指し、24時間昼夜施工での復旧作業を進め、9月上旬の



平成24年7月12日～14日にかけて九州北部を襲った豪雨では7月3日に決壊、越水した花月川や山国川、巨瀬川（福岡県柳川市）では堤防が決壊、広範囲にわたる地域が浸水しました。7月3日の梅雨前線豪雨と九州北部豪雨により河川では合計3箇所堤防が決壊し、越水は98箇所にも及び、その復旧については、堤防が決壊した矢部川では7月14日の被災から3日後の7月17日に元の堤防高さまで応急復旧を完了しました。

一方、道路では平成24年7月12日未明から降りはじめた雨（時間最大雨量123mm、連続雨量478mm）により熊本と大分を結ぶ国道57号（滝室坂）



清正が創った「熊本の道」

目的にあわせ多彩な道づくり

「みちづくし in 熊本2012」が10月26、27日熊本市で開かれる。戦国の武将加藤清正は道づくり、城づくりの名人と言われた。熊本藩主となった清正の道を訪ねてみよう。

加藤清正は、戦国時代から江戸幕府初期の時代の転換期を生きたヒーローである。

清正の前半生、日本の主役は豊臣秀吉で、政治の中心は大阪にあった。ところが関ヶ原の戦いを境に流れは徳川に移り、参勤交代によって道は江戸を起点に整備されることとなる。大阪と江戸。二つの時代を生きた清正は、道を整備するにあたって、物流と軍事の両方に配慮する必要があった。

■すべての道はお城から

江戸時代、道路はまず日本橋が起点となったように、熊本の街道ではお城の下「札の辻」が起点であった。

豊前街道と豊後街道は札の辻から京町まで同じで、お城の中を通るコース

い堀川沿いの道には商家や旅籠が軒を並べ塘町筋と呼ばれていた。江戸時代、参勤交代の一行はここで第一日目の宿泊をした。

大津から阿蘇外輪山を越えて、カルデラ内の内牧・坂梨を経て、再び外輪を超え。豊後との境までは急峻な山坂の連続。久住から鶴崎までの豊後領は、宿場だけが熊本領の飛び地であった。鶴崎からは船路となる。

○豊後街道は肥後街道へ

豊後街道は大分県に入ればその名も肥後街道となる。

豊臣家の忠臣清正は、秀吉亡き後、秀頼に難あらばと豊後鶴崎に飛び地を確保し、肥後と鶴崎を結ぶ街道を整備したのである。当時本格的に整備された九州でも代表的な街道であった。

■守りも考えた街道づくり

―豊前街道・薩摩街道・日向往還―
もう一つの参勤交代路が豊前街道である。豊前街道は札の辻を起点に、熊本から豊前小倉を経て中国路に至る道である。清正によって整備されたこの道は、熊本の京町から植木町まで、大地の真ん中を掘った凹道で、鹿子木(旧北部町)・関町(南関町)の山鹿道と植木から高瀬を経由して関町に至る高瀬道があった。

高瀬道は平坦で大砲の輸送に適して

になる。旅人にとって、この道はまるで箱の中を行くような気味の悪い心地がしただろう。

■清正の代表作 豊後街道

清正は、一方、熊本から大分へ向かう豊後街道を瀬戸内海の連絡通路として建設した。

城下坪井から東へ、枯木新町・大津(五里)・内牧(阿蘇市)・坂梨(七里/阿蘇市)・久住(久住町)・野津原(野津原町)を経て鶴崎(大分市)へ至る。

清正は城下から大津まで、幅二十間の屋久杉の並木街道を作り上げ、厳し

いお触れを出して樹木を保護した。

さらに進み黒髪まで来ると、一里塚(二里木)が見える。一里塚は豊臣秀吉が三十六町を一里として一里ごとに塚を築かせたことに始まる。その後、徳川家康が慶長6年(1604)に、榎を植えた一里塚を制度化した。

菊陽町まで来ると、ここには今も杉並木が連なる。幅約36メートルの道が延々16キロも続き、その両側にすぎの太木がそびえ立っている。

杉並木は熊本のシンボルとして長く親しまれることとなる。

○大津・阿蘇方面へ

大津は豊後街道の宿場町として賑わ



は下級武士団を配置した。

古町が占領されれば、新町に後退。新町は中央に町屋を置くが、両側はすべて武家屋敷となっており、町の道筋は碁盤の目ではなく鍵型にねじ曲げられ、前方が見通せないようになっていた。さらに、城内は高い石垣を築いて

あるため、敵が攻めて来ても、高い所からの攻撃ができた。また、城内は籠城用に食料を備蓄、食事の煮炊きに欠かせない薪炭は、城内に雑木を植え自給できるようにした。

このような戦闘に強い町や城づくりを行った清正だが、清正の防御の構想はその後も役に立つことはなかった。

ただ、明治10年の西南戦争でその威力を発揮した。官軍が52日籠城し、ついに城内には薩軍を一步も踏み込ませなかった。

清正が築いた熊本城は、平成19年築400年を迎えた。

出典 (Hand to Land

2007春号より)

加藤 清正(かとう きよまさ)

豊臣秀吉の子飼いの家臣で、賤ヶ岳の七本槍の一人。秀吉没後は徳川氏の家臣となり、関ヶ原の戦いの働きによって肥後国一国を与えられ、熊本藩主となった。



「みちづくしin熊本2012」が10月26日、27日、熊本市で開催されます。道守九州会議交流会は平成16年に第1回を熊本市で、その後、年1回各県持ち回りで別府市・長崎市・福岡市・鹿児島市・宮崎市・福岡市・佐賀市で開催されてきました。昨年の佐賀市の開催でちょうど九州各県を一巡したわけです。

そして今回は2巡目になる第9回を熊本市で開催します。そこで、開催地が第1回開催地に還ることを契機に、みちづくしの内容についても、原点に還って道守を考える場にしたいとの思いで「今こそ考えよう 現代の道守とは…」をメインテーマとしました。

交流会については、坂本正（道守くまもと会議代表世話人）による基調講演のほか、森野美徳氏（都市ジャーナリスト）、樗木武氏（道守九州会議代表世話人）、坂本正（道守くまもと会議代表世話人）を座長とした分科会を予定しています。また2日目の現地体験学習会については阿南誠志氏（自然を愛する会）の案内による「熊本歴史街道ツアー」参加交代阿蘇路を歩く」を企画しています。

九州各県から多くの道守の皆様が参加いただくことを期待します。

だける人集めなど大変でしたが幸い各ブロック世話人の方々の協力で平成21年に設立しました。資金については賛助会員、一般会員などの年会費のほかにNPO登録をしたことでのいろいろな補助金情報が入ってきます。平成22年には国土交通省の社会実験をするこ

裁帯管理システム」を使い実際に長崎県下の小学校で種まきから苗を育てそれを他の学校や地域に配り植栽するという活動がスタートしました。まだ始まったばかりですがこのシステムが認知され植栽に必要な資金の提供者、活動に参加してくれるグループなどの輪が広がって定着して行くように頑張ろうと思っています。

宮崎

花壇プレートでサポート料確保

ボランティア団体にとって1歩間違えば死活問題になりかねないのが活動資金の確保である。内閣府では「新しい公共」と銘打って、市民活動団体やNPO団体に寄付文化の醸成や、事業化推進を推奨しているが現実的には活動資金を生み出すことが困難な状況にある。

みやざきフラワーロード・ネットワークも、宮崎市から花の苗の現物支給を受けて、街中の花壇に植栽することで活動を広げてきたのだが、継続事業の予算の見直しにより大幅な経費削減のあたりを受けてきた。

行政が予算化するのが当然だろう、いや、永遠には出し続けられない…等いろいろな意見が飛び交う中、最終的に固まった案が「橘通フラワー・サポート・システム」であった。

国道沿いにある国交省が設置し、宮

分科会

九州の道守活動を展開するうえで、さまざまな課題に直面している。「みちづくしin熊本」では三分科に分かれ①先進地に学ぶ活動のあり方と資金確保②民と行政のパートナーシップについて③道の楽しみ方について、事例発表と討論を行う。

第1分科会

座長 森野 美徳氏
会場 KKRホテル熊本 有明の間

「先進地に学ぶ活動のあり方と資金確保」について

道守活動を継続していく上で、資金確保は大きな課題です。花壇づくりを例にしても、花の苗、肥料、スコップ・箒などの消耗品の購入については、最低限の資金は必要です。

特に近年は行政からの資金または物の支給等の支援が少なくなってきたており、会員の手出しでまかなっておられる団体も多いのではないのでしょうか。

このような状況では人も離れていくし、活動の継続は困難です。しかし、資金確保については、以前からの課題でもあり、対策を検討し実施されている団体もいらっしゃると思います。

本分科会では、そのような団体の事例やアイデアを紹介していただき、他団体でも同様な対応ができないかを模索し、今後の活動に生かしていきたいと考えます。

長崎

NPO組織を立ち上げて

道守長崎会議は平成16年設立以降、県下各地域で道に関わるボランティアをされている民間の方たちに呼びかけ、行政、企業の支援をいただきながらまず各地域のブロック会議を立ち上げました。各ブロック会議の世話人さんたちと活動についての話し合いをする中で活動を続ける問題点として挙げられたのが活動資金、それと後継者の

問題でした。確かに活動されている皆様の多くが年金生活者です。時間と力を出せても経費までは・・というお話になります。このままでは道守活動の継続が危ぶまれるのではないかと、せっかくできた絆を消してはいけないというのでNPO組織を立ち上げることにしました。NPO組織をつくるのは煩雑な書類を準備し、活動をご理解いた

第2分科会

座長 樗木 武氏
会場 KKRホテル熊本 不知火の間

民と行政のパートナーシップについて

地域の道路において、「民」の方は、掃除や花を植えて綺麗にするだけではなく、イベントを企画して楽しんだり、まちづくり・まちおこしに参加したり、様々な道と関わっておられます。また「行政」は、地域と一緒に道路づくり・道路管理をしたいと考えています。

そこで、民と行政の協働の考え方から「道守」ができたのですが、時代（社会情勢）の変化とともに、お互いの求めるものも少しずつ変化し、道守活動への関わり方も変化してきているのではないのでしょうか。

民から行政へ求めるものは何か。また行政から民へ求めるものは何か。本分科会では、これらを踏まえて、民から行政への要望事項を含み、理想的なパートナーシップのあり方について意見交換したいと考えます。

佐賀

行政と役割分担をしっかりと

「道を研究する会・ロードネット佐賀」は県内の様々な分野で活動する女性6名で、平成14年に発足しました。

まず、各市町の女性団体に声をかけ、同時に市町の首長や関係者に呼びかけました。女性だけの話し合いでは「つぶやき」に終わってしまう恐れがあるからです。今までは道路整備は行政の仕事と思い女性には関心が薄かったの

で、地域の特産物・自慢料理を持ち寄り、食事をしながらミニ座談会、くるま座だんぎを平成20年までに13市町で開きました。ここでは地域活動や生活者の視点から又、家族の安心・安全の面から提言が出され、地域の問題として、経済活動の道、情報や人が交流する道など、道についての役割が提起さ

平成17年からは道守会議として「佐賀城下ひなまつり」の清掃活動を行いました。最初は60名位の参加でしたが、本年度は200名位に増えました。それには、行政や各関係団体との事前打合せ、役割分担をしっかりと行ったからだと思います。

諸活動を通して考えられることは、
①国・県・市町・民間と共に、道についての現状・問題点を話し合う

②関係者・一般・学生の方々へ、道の役割・もたらす影響・利便性などの認識を広める

以上について、もう一度原点に戻り道守活動を進めたいと思います。

柳川 互いにノウハウを出し合って

道守柳川ネットワークがスタートし9年目を迎えました。

「できる人が、できることから」を合言葉に、現在では32団体600名を超えるまでに成長いたしました。道守を市民活動独自で進めようとする、まず広報活動や話し合いの会場設定から始まり、清掃に必要な箒やゴミ袋の調達、さらにその回収など、総てを個人の善意と負担で賄うには限界があり

ます。市当局もまた限られた予算のなかで隅々までの清掃は難しく、お互いにノウハウを出し合うことになったわけです。

大きなイベントとして年に一度、柳川「堀と道」クリーンアップ大作戦と銘打ち、行政との共働で掘割と道を同時に清掃し観光客をお迎える取り組みを行っています。

第3分科会

座長 坂本 正氏
会場 KKRホテル熊本 天草の間

道の楽しみ方

道守だけではありませんが、道はみんなの生活の場であり、楽しみの舞台でもあります。楽しみ方は人それぞれですが、例えば身近なものだと散歩やドライブ。

また、季節毎に歩道に花を植えたり、お祭りやイベントを企画したりするのも楽しみ方の一つでしょう。

あそここの活動は面白いと思うけど、実際どうやって運営しているのだろうか等の質問も含めて、情報・意見を交換したいと考えます。

ちなみに、熊本からは2日目の現地体験学習会で企画している「熊本歴史街道ツアー」を案内していただく阿南さん（NPO自然を愛する会代表）から歴史街道を歩く楽しさについて発表していただく予定です。

熊本 楽しみながら、道を学ぶ

江戸時代の参勤交代の道を小学3年生から中学生までの子どもたちが歩く「参勤交代・徒歩の旅」。今年で35回目を迎えた「九州横断（豊後街道） 徒歩

の旅」をはじめ、豊前街道、薩摩街道、日向往還とそれぞれ熊本を通る歴史街道を途中体育館などに泊りながら歩きます。「九州横断（豊後街道） 徒歩の

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

熊本

地域からの報告

熊本・植栽帯維持管理検討協議会

広告で苗代確保の社会実験 システムづくりの模索

高温多湿な熊本では、道路沿いの植栽帯で夏場に生い茂った雑草が冬には枯れたままになるなど、道路景観が損なわれているところが見られます。九州新幹線の全線開業、政令指定都市移行と、大きな変革期にある熊本の観光立県を支援するためにも、自分たちの身近な道路環境を美しくすることは重要であるといえます。

そんな中、「民間パワー」を活かして道路沿いの花壇を維持・管



サインボード設置



水道町交差点花壇

理するための資金を確保し、地域を美しくするためのシステムづくりを検証しようと、社会実験を実施しました。この実験は国土交通省が定める社会実験で、熊本県、熊本市、国土交通省熊本河川国道事務所及び道守くまもと会議等が協議会を設置し、運営しました。実験期間中は、熊本市水道町交差点、九州電力熊本支社前、熊本市立帯山中学校前、八代市八代駅前交差点の4ヶ所にある道路植栽帯にスポンサー企業のクレジット入りのサインボードを設置しまし

た。このようなサインボードの広告収入で、道路沿いの花壇に植える花の苗代を確保するためのシステムづくりを模索しました。実験の結果、植栽

旅」に関しては、今年は7月の豪雨被害により開催が危ぶまれましたが、多少ルート変更することで予定通り実施することができました。

この旅の目的は①自然と共に育ち、自然と共に生きる、逞しい心と身体づくり、②集団生活や地元の方々との交流を通じて「心」の体験学習、③江戸時代当時の道を実際に歩いて旅する

鹿児島

道を舞台に楽しみながら携わる

「道を楽しむ」私たち道守は、どんな活動にせよ、道を舞台に楽しみながら携わっているのではないのでしょうか。その中の一つ、道という空間を使ったイベントに焦点を絞ってみました。国道3号線を舞台として、400年以上の歴史を持つ鹿児島県指定無形文化財3000人もの若者が引き合う「川内大綱引」をはじめ、日本では珍しい自衛隊の戦車のパレードなどのイベントが開催され賑わい創出がはかられています。

さて、私が所属している薩摩川内市商工会で道を使ったイベントを整理してみますと、年間にマラソンが6、ハイクング1、まつり2、緑地帯を使ったイベント2の計11箇所もありました。その中には、地域の歴史を物語る有形・無形の財産を広く観光や地域の街づくりに活用した、かつて西郷隆盛



アンケートの様子

道の有効利用については、諸手続きの簡素化や、占有料金の運用規定の見直し、関係行政機関の運用指針と調整機関の設置が必要であることがわかりました。さらに、官と民の協働関係の構築のため、民間ボランティアが道路空間の維持管理の一翼を担うためのお互いの意識を改革し、民間ボランティアが意欲と誇りをもって活動ができるよう、指定管理者制度の導入が提案されました。また、植栽帯の広告料システムは、民間ボランティアが営業活動しなければならず限界があるため、国から市町村への交付金を利用した植栽帯維持管理システムの導入が必要ではないかと結論づけられました。

今回の実験を通して、地域の道路の空間形成には、官と民のパートナーシップが欠かせないことがわかりました。今後、プライドを持って自立したボランティア活動への意識を持つと共に、それを支えるシステムの開発が重要であるといえます。（中村幸子）

熊本

道の駅たのうら

柑橘と潮風の香る道

道の駅「たのうら」は、熊本県下でも最大級の砂浜を擁する海水浴場「御立岬」に程近い、国道3号田浦町大字田浦に平成15年に開駅しました。平成16年には南九州西回り自動車道が整備され、渋滞が緩和するとともに、当駅へいらっしゃる方も増えました。

そんな中、平成17年に道守くまもと会議が発足し、その一員として道守花壇の管理・運営を始めました。四季折々に咲く花は、ドライバークの目を楽しませてくれることと思います。さらに、当駅の玄関前には、田浦特産である甘夏の木と不知火の木が植えてあり、春には真っ白い花が枝いっぱい咲き、やがて小さな実をつけます。秋には実も成長し、寒さを感じるころから黄色く色づいてきます。その他にも敷地内には、ポンカンや晚白柚、清見、レモン、日向夏、スウィートスプリングなど20種類以上の柑橘の木を植えています。これらは常緑果樹ですので、花壇の花が少ない冬場でも緑を楽しむことができます。



今後とも花壇に咲く花々と柑橘の爽やかな香りで訪れる方をおもてなししていければと思います。（道の駅たのうら 高上慎二）

不知火町公民館

福岡



親子清掃から始まった美化運動

毎月1回最終日曜日の午前9時から約1時間、基本的にゴミ拾いを中心に活動を行っています。多い時でも約50名、少ない時は12〜3名という小さい活動ですが、大牟田市役所前から大牟田警察署交差点まで、国道208号線沿いの650mの区間の清掃を行い、その間の植栽帯に花を育てています。

基本的な考えは、「地域ぐるみで子供を育てる。親が手本を見せよう。」（青少年育成という観点から、子どもたちと親や地域の大人がいっしょに清掃作業をし手本を見せよう）として、「自分たちの街は、自分たちできれいに保つていこう」です。

花を植えるのは、館長の仕事（趣味）で、楽しんでやっています。地域の人々の意識を変えたく、自ら進んで動いてます。その効果がだんだん出てきて、近ごろ自発的に、花に水をあげてくださったり、いつ誰がされたか分からないけど草がなくなったりと、だんだんきれいになってきてます。

また、不定期ですが、土曜か日曜の夕方から日没まで、作業（植栽帯の剪定や草取り）を行い、終了後みんなでお酒や手料理を持ち寄り、「飲みにけいしよん」をやるのも楽しみの一つです。

そして、他の清掃活動と違う所は、不知火町公民館では、剪定した枝や取った草などは、ゴミ袋に入らず植栽帯の下や間に押し込みます。ゴミを出しません。ゴミ袋に入れて出すのは、紙くずや、弁当カス、空き缶、たばこの吸殻などだけです。循環型の生活を皆さんに理解してもらおうと頑張っています。

しかし困ったもので、たまに他の団体が、清掃活動をされると、根こそぎ押し込んだ落ち葉や、剪定くず、そして敷き詰めた枯草などをきれいさっぱりと持っていくつてくれない場合があると、残された虫や微生物の食べ物がなくなり、花を食べてしまいます。



先日一緒に活動した団体から取らないで下さいとお願ひしました。有機物がないと土が死んでしまい、元気な花は、育ちません。
（不知火町公民館長 山口時彦）

丸福建設

佐賀



社員一人ひとりが地域密着

（株）丸福建設は平成24年4月に道守佐賀会議に新規入会しました。

私達の活動拠点エリアは、11月に佐賀インナーナショナルバルーンフェスタが開催される地域です。

県内はもちろん県外からも大勢の見物客が見えますので、玄関口であるJR久保田駅周辺及び国道207号沿線の清掃活動も数年前から1年に4回行っています。これらの活動から社員一人ひとりが地域密着型としての誇りと環境に対する意識高揚を継続して行こうと考えます。

今後は、道守佐賀会議への入会をきっかけに他方面のボランティア活動にも積極的に参加していきたいと思っています。



市寿会

長崎



快適なみんなの道路を目指して「がんばらんば！」

私達市寿会は、諫早市多良見地区の老人会会員で構成されている団体の一つです。

長崎市と諫早市の市境にある、国道34号線沿いの小さなバス停そばの道路植栽帯を中心に、清掃や花苗の植え込み作業の活動を行っています。



笑顔の花は咲きました！

会員数17名で、「みんなの道路を気持ちよく利用してもらうため」という目的で活動を開始し、早5年がたちました。バス利用者や通行人の皆さんに、心地よい場所の提供ができればと、日々活動に取り組んでいます。

夏期や冬期の作業は厳しいものがありますが、皆で和気あいあいと作業し、次第に色とりどりの花で綺麗になっていく様子を見ることは、とても心楽しいものです。

又、今年8月には、道路の美化・清掃に功績のあった団体として、長崎河川国道事務所長表彰を賜りました。今回の栄誉を今後の励みとし、会員一同、元気に楽しく活動していきたいと思っております。
（山中 征二）

大分



大分市・生石町港友会

平均年齢79歳

清掃活動は健康づくり

大分市の西に位置する生石町は、別大道路のスタートポイントの港町。毎月第2、第4金曜日に、別大道路や再開発され生まれ変わった湾岸沿いの公園などの清掃活動を行っています。

別大道路は、道も広く綺麗に整備され、通行者の意識が変わったせいか、昔に比べたらゴミも10分の1程減りました。

また、私たちの活動は、道路美化も目的ですが、「健康」にも気を使っています。

万歩計でいうと、7000歩程歩き、いい汗をかいています。終わったあとは、みんなで冷たい飲み物を飲んだり、女性陣が家でつくってきた手づくりのものを振舞ってくれたり、地域のコミュニティづくりも盛んに行っています。



今年、国土交通省より「道路環境の保全美化功労に功績のあった団体」として表彰されたことを契機に、同地区だけでなく、王子町、春日町と国道10号線がある地区とも連携をとり、広く繋げていきたいと思っています。

宮崎



花見ボランティア幸せ会

スイセン、アジサイなど「満開がうれしい」

『花見ボランティア幸せ会』

は、宮崎市高岡町花見地区の国道10号沿いで花植えや除草、清掃活動などを行っています。活動日、皆さんは早朝6時から、約1時間かけて作業を行います。会長の竹中茂さんのお話では、現在、主に植えているのは、スイセンや彼岸花などの球根をもつものやアジサイが中心で、時期を違えて花を楽しむことができます。会の中には、花に詳しいメンバーがいてアドバイスをもらいながら花の植栽と管理を行っています。



「花が満開になったときは、やっぱり嬉しい。また、メンバーは皆同じ小学校（出身）だから、気心も知れていて、何でも言える雰囲気があります。そんな皆と会うのが何より楽しい。連絡事項があるときは、1軒ずつ直接家に行き、色々な話をします。」チームワークの良さは、こんなところからきているようです。



「今後も若い人達に繋げ、活動を継続していきたいと思っています。」その視線は将来にも向けられています。（道守みやざき会議事務局）

鹿児島



いづろ商店街振興組合

来街者に和みと安らぎを

私たちが日常商売をしているいづろ商店街は、中央地区商店街の玄関口にあり、道路中央を電車が走る「250m×2面」の総延長500mの広くて長い商店街です。大型店や中小小売店が約90店舗並ぶとても活気のある商店街です。

今から3年前に国や市のご協力をいただき、通り会各店舗の後押しもあり、総工費約10億円をかけ、立派なアーケードをリニューアルオープンできました。

いづろ通りを歩いて下さる方々に、花と緑の憩いのある商店街を目標に努力してまいりました。おかげさまで国や県・市のご協力をいただき、花や緑いっぱい楽しい商店街になりました。今年はどうしたのか、春に咲いた「白もくれん」が8・9月に二度咲くという珍事もありました。

今年も早いもので秋が過ぎるとすぐクリスマス商戦です。11月2・3日には市が開催する「おはら祭り」が開催されます。東京・渋谷の県人会をはじめ、各地より約2万名の踊り手が練り歩く賑やかなお祭りです。是非見に来てください。



最後になりましたが、今年7月20日に九州地方整備局、吉崎収局長より、道路美化に感謝状をいただきました。ありがとうございました。今後も花と緑の街づくりに努力してまいります。（有馬忠夫）



便利で面白いストリートネーム

せん。

米国の住所の書き方をご存じですか？私が勤めていたオフィスの住所は、350 S. Grand Ave., #1700, Los Angeles, CA 90071 です。日本とは逆の順番で表記されており、90071は郵便番号、CAは州を表す2文字記号、ロサンゼルスが市名、#1700は部屋番号です。そして、S. Grand Ave.（サウス・グランド・アベニュー）が道路名（ストリートネーム）で、350が地番です。

米国に限らず、海外には住所を道路名で表す国が多くあります（というより、ほとんどの国がそうだと思います）。この仕組みを使うためには、全ての道路に名前がついていることが必要ですが、実際、米国では幹線道路から小さな路地、延長十メートルほどの私道、砂漠の中のどこへ行くのかわからない未舗装路まで、あらゆる道に名前が付いています。「名もなき道」などというものはありません。

その名前ですが、例にあげた「グランド」は、どこの都市にもよくある名前前で、「ブロードウェイ」と同じ類です。ほか、代表的なものとしては、ワシントンやリンカーンなど歴史的な人名やハリウッド、ロサンゼルスなど地名が多く使われていますが、何しろ沢山あるので、珍しいストリートネームの由来など調べてみるのもおもしろいものです。

そんな中、私が最もインパクトを感じたストリートネームに「Jazz Rd.」（ジャズ・ロード？）、があります。ロサンゼルスからラスベガスに向かう途中、砂漠の真ん中にある道路です。現地では



割と有名で、「辞書の最後の単語になるように」と考案された名前だそうです。なお、名付けには一応ルールがあり、例えば存命中の人名や営利企業の名前はダメです。また、市街の幹線道路にはアベニュー、ブルバード、ストリートなど、住宅地の路地にはアレイ、レーン、コート、プレイスなどと「道」を表す言葉を使い分けることになっています。

お気づきと思いますが、この仕組みは道案内にとっても便利です。また、米国ではストリートネームと地理座標のデータベースが市販され、早くからインターネットで地図検索やルート案内のサービスが提供されていました。当時、カーナビもろくに体験したことのない私は便利さに感激したものです。

翻って日本の住所表記は道案内に不向きというわけですが、今ではスマートフォンでルート検索もできますし、米国よりも圧倒的に優秀なカーナビが普及しています。住所表記の問題がITで克服されているというわけです。

私は、この日米の違いは「道路があるところに街が作られていった国と、街があるところに道路が作られた国との違いかな」などとひとり納得し、住所表記というのも長い歴史の中で形作られた社会制度のひとつと理解しています。

ところが、韓国では、最近になって日本型の番地方式からストリートネーム方式に変えたと聞きました。そんなことが本当にできるのか？もともと道路に名前がついていたの？など、興味あるところ



プロフィール

富山 英範

北海道大学工学部土木工学科卒、旧建設省、在ロス・アンジェルス日本国総領事館領事などを経て現在は九州地方整備局福岡国道事務所長。



天満坂（長崎市）



国道57号小浜温泉湯けむり

わたしの好きな道

今に生きる喜びと希望を抱いて

国道57号終点・長い石段の道

人それぞれに生きる道があり、人それぞれに生かされた道がある。道に分岐点があるように、人それぞれに人生の分岐点がある。感動、興奮、出会いの歓びがあり、別れの悲しみ、郷愁、そして生死をさまよう分岐点がある。人生はまさに道を歩むがときである。

国道57号線の終点、長崎県庁近く（長崎市万才町の天満坂）の長い石段の道が好きだ。その道がわたしに生きることを教えてくれた。生きる原点となった。忘れ難い道である。

原爆落下の1時間前にあの石段に座り込んで空襲がくるけん、早う家に帰ろう！と泣きじゃくり、買物に街へ戻ろうとした母親の着物の裾を引っ張って山沿いの高台の家に戻った。その直後にあの「ピカッ、ドン」がきた。街を歩いていた多くの人たちは原爆の熱線を浴びて倒れ、息を引き取った。今も、あの運命の石段を通るたびに手を合わせ、生き残った者として忘れ難い長い石段の道に心しずかに日々の平穏を祈る。わたしを生かしてくれた坂の町長崎の石段の道である。

原爆落下の数日後、5歳の幼いボクは長崎から国道57号線沿いに約40kmの道を親父が引く家財道具を満載したリヤカーを押す母親に手を引かれて、両親の故郷、小浜の小さな温泉街までトボトボ歩いて疎開した。60年後ふると同帰、今住んでいる小浜の街である。

この国道57号沿いの由布院、黒川温泉、地熱発電としての国内最大出力（11万KW）を誇る九電八丁原発電所、阿蘇5山・外輪山は雄大にして爽快、有明海から見る雲仙岳・平成新山等世界ジオパークの雄姿とそれぞれの地域のそれぞれの人間の自然との共生に感動し、平凡な日常生活に新たなエネルギーを頂く。

国道57号線・九州横断道路・やまなみハイウェイは老いを迎え、たわたしに大自然に浸る感動と今に生きる歓び、そして明日への大きな希望を抱かせてくれる。この秋、東京からの客人を由布院から長崎までこの横断の道、山の道、海の道を九州人の誇りをもってご案内する。

プロフィール

宮田 隆（みやた・たかし）

長崎県雲仙市小浜町在住。小浜温泉57代表。小浜温泉代表。NPO道守長崎副理事長。道守活動、環境美化活動をはじめ、住民が主体となった地域づくりを行っている。





「みどりの里・耳納 風景街道」を訪ねて

わが国は 筑紫の国や 白日別
母います国 櫛多き国

久留米出身の画家・青木繁は思いを込めて、故郷をそう詠った。秋は、真っ赤な櫛（ハゼ）の、燃えるような紅葉の並木道を歩くことから「みどりの里・耳納風景街道」は始めるのがよい。

○秋の山里、紅葉とワインと

紅葉の道を耳納連山に向かって歩く。青木繁の歌碑を通り、柳坂を少し登ると「もみじ寺」永勝寺。天武天皇の勅願によって建立されたという三大薬師のひとつだ。その実が葉になるというケンポ梨の木がある。振り返ると、ハゼ並木と筑紫次郎と呼ばれる筑後川が少し身をくねらせて流れる筑紫平野がはるかに、大きく広がる。

耳納連山は、連山名の通り九十九とも呼ばれる峰々から、幾筋もの溪流が流れ下る。まるで、水の縄のような山川だと、「水縄山」と呼ばれ、「耳納」になった。その水を使って、人々は全国一の植木の産地を創り出し、ぶどうの名産・巨峰、柿、梨など秋の味覚を忘れがたいものに育ててきた。もちろんワインも。

うきは市の「つづら棚田」にも足を延ばそう。曼珠沙華（彼岸花）の燃える赤とたわなに実った稲の黄金色。息をのむ里山の風景だ。夏の九州北部豪雨に襲われ、棚田は大きく壊れたが、一日も早い回復が待たれている。

耳納風景街道はこの大河と耳納連山が織りなす「山辺の道」と「中道」沿いが中心だ。この二つの道は久留米城と、天領・日田をむすぶ日田街道。広瀬淡窓の教えを乞うため、日本を背負った多くの若者が辿った道で、草野宿や吉井宿など、今も往時の名残をとどめる寺社や街並みが続いている。白壁の街・吉井の雛祭りの人気はすでに、全国区となっている。

○春もまた良いし

春も美しい。世界の椿を集めた「久留米ツバキ園」は、驚くほど、色とりどり、花姿も多彩なツバキが春を告げると、続いて、筑後の春

から夏を彩るツツジが咲き誇る。その中で、人気は藩主が楽しんだ発心公園のサクラと「浅井の一本桜」。花見の人、人、人。

この浅井の桜は、「奇跡の桜」とも呼ばれ、愛されている。平成三年の台風によって痛めつけられ、数百年も咲き続けた桜も、もはや樹命が尽きたかと思われたが、見事によみがえった。東日本大震災に生き残った一本桜は、残念なことに、力尽きたけれど――。

歴史の好きな人は、草野そでろ歩きがお勧めだ。中世の豪族・草野氏の城下で、下って江戸時代は宿場町。草野歴史資料館、山辺道文化館、神社仏閣、上野邸、鹿毛邸など、タイムスリップした懐かしい街歩きが楽しめる。

みどりの里・耳納風景街道は、四季折々、穏やかな時が流れる街道である。

みどりの里・耳納風景街道は、九州十一番目に登録された、一番新しい風景街道。今村武憲・推進協議会会長は「耳納山麓の自然や歴史と文化などの地域資源は、代々そこに住む私たちの生活の糧であり、先祖よりいただいた貴重な財産です。訪れていただきた方々には、この地域の穏やかさ、癒しや安らぎを感じていただければと思っています」と話していた。

久留米市長
榎原利則
うきは市長
高木典雄

久留米市では、本市東部のこのエリアの魅力を活かすため、「みどりの里づくり事業」として、地域の皆様と一緒に「散策ルートづくり」や「仮称」世界のツバキ館」の整備等を推進しています。今回の風景街道の登録を機に、地域の皆さんと共に更に、原風景の魅力と調和した活力ある地域になりますように努めて参ります。

うきは市には、地域資源としてつづら棚田に代表される山村風景があります。今回、九州北部豪雨により多くの棚田が甚大な被害を受けました。風景街道の貴重な地域資源である棚田の一刻も早い復旧について皆さんの力添えを頂きながら取り組んで参ります。また、地域の皆さんと一緒に地域づくりに努めて参ります。

支配人 中島隆志さん

用は適切か？」です。

もっと大事ななのは「地域の方々のため」と感じています。

になれば良い地域づくりが出来ると思っております。

うな、気持ち良く使いやすい道路施設を目指して今後も頑張ります。



道守 Vol.24 16



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」秋号
平成24年10月26日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

■（一社）九州建設技術管理協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp